

1 単元名 武家政権の成立（鎌倉時代）

2 本単元の目標

- (1) 中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から中世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 (知識及び技能)
- (2) 中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、表現する。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。	・公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して考察し、表現している。	・中世と日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

昨今、様々な場面で「多様性」が求められる現代社会において、それぞれの価値観を認め合い、ときには妥協しあい、共存しながら社会を生き抜いていく力が問われている。中世という時代は、院政から始まる貴族権力や新たに台頭してきた武士権力、さらに宗教を背景に地域に根を下ろした寺社勢力というせめぎ合う権力構造と、そうした時代に力をつけていく庶民という、多様な価値観に富む時代である。こうした時代の特色や人々の生き方を理解することで、複雑な現代社会の諸課題を解決する糸口を、歴史から学べるような単元となっている。

中世という大単元の中で、鎌倉時代は権力構造の大きな変化や貨幣経済の浸透により力をつけていく庶民、新たな仏教の出発点、また海外との交流など、中世時代の画期となっている。

(2) 生徒観

本校、普通科の生徒たちは、真剣に授業に向かう姿勢やグループ活動での発言が活発な生徒が多く、自ら進んで学ぼうとする姿勢が見られる。一方で中学校までの学習内容は十分とは言えず、基本的な学習内容と歴史の流れを抑えるために復習も必要となる。

これまでの学習で生徒たちは、院政の始まりとともにさまざまな勢力が実力でのし上がっていく社会の在り方を理解したり、平氏政権の登場により武士が政界でも力をつけてきたりしたことを構造的に学んできた。一方で、授業ごとの内容は理解できるものの、中世という時代における

院政期や平氏政権といったように、時代を俯瞰して見るのが難しかった。

また、夏季休業中には、探究課題として「身の回りの神社仏閣」について調査し、授業で得た知識や資料から読み取った内容をもとに、自分なりに探究し表現することができた。しかし、探究課題の考察において、調査した神社仏閣をその時代の社会背景と関連付けて深く考察することが課題として残った。したがって、本単元では、時代の外観を的確にとらえ、その時代を通してどのような時代であったのかを理解し、さまざまな価値観を多様な視点でとらえながら、自分の言葉で表現する力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

生徒が学習の問いを立てることに難しさを感じているため、問いを自ら選択する方法も取り入れることにより、学習への参入障壁を下げ、主体的な学びを促そうとする。また、多様な資料を用いる際には、現代語訳などを活用し、学力幅に対応することで、生徒全体が学習に無理なく取り組める環境を整える。

また各授業の導入では、学習内容と現代社会とのつながりや、当時の人々の価値観を生徒が容易にイメージできるよう支援をおこなう。そして、生徒が選択した問いの答えを導き出すため、授業内でさまざまな視点から歴史事象をとらえられるような工夫を随所に取り入れる。これにより、単なる知識の習得に留まらず、歴史事象を深く、多角的に考察する力を育成する。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	単元を貫く学習課題 鎌倉社会を動かしたのは、どのような人々だったのか？				
		学習課題 鎌倉幕府はいつから？ ・ 史資料を通して東国の源氏がどのようにして平氏を打倒したのか考察する。 ・ 幕府成立過程の中で、幕府が成立した画期はいつなのか、さまざまな資料をもとに考察し、その根拠をワークシートに表現する。		○		思：鎌倉幕府の成立期について、さまざまな資料をもとに多面的・多角的に考察し、ワークシートに根拠を示して表現している。
	2	学習課題 頼朝が武士たちを統率するために工夫した点とは？ ・ 鎌倉幕府の支配のしくみと、武士と農村の様子についてワークシートにまとめる。 ・ 幕府のしくみにおいて御家人を統率するために一番工夫した点について考察し、ワークシートにまとめ、発表し合う。	○			知：幕府の権力構造と武士社会の慣習、朝廷との二元支配という社会の成り立ちをワークシートにまとめている。

3 本 時	目標：承久の乱が与えた社会的な影響を、さまざまな資料を通して多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。				
5 分	1 世界各国の勢力バランスと、鎌倉時代の幕府と朝廷のバランスを比較し、勢力均衡が崩れたときに争いに発展するという事象を過去と現在の出来事から理解する。 2 本時の課題を確認する。 学習課題 承久の乱は世の中をどう変えたのか？				・歴史総合で学習したことを振り返った上で、過去の歴史（鎌倉時代）でも同様の起きていたことを理解し、本時の学習につなげる。
15 分	3 承久の乱に至る過程を理解する。 ・執権の地位を強化していく北条氏 ・鎌倉将軍と御家人、朝廷の関係性 ・実朝の暗殺が引き金となり後鳥羽上皇が挙兵するも、幕府側が勝利。				・複雑な内容を生徒が理解するために、鎌倉幕府と朝廷の主要人物を、電子黒板を使用して視覚的にわかりやすくする。 ・解説した内容を、生徒がいつでも振り返ることができるよう解説内容を黒板に掲示する。（K P法）
20 分	4 承久の乱の社会的影響を、複数の資料をもとに、ワークシートにまとめる。 ・3人グループで、3つの資料を分担して読み取る。 ・担当した資料を同じグループのメンバーに2分で説明し、その他の生徒は情報をワークシートにメモする。 ・メモの内容から自分の単元の問いに照らし合わせて、本時の問いについてグループで話し合う。			◎	態：承久の乱の社会的な影響について、多面的な視点でワークシートにまとめ、自ら立てた問いを振り返りながら課題を追究しようとしている。 【ワークシート】 ・担当資料の内容は、学習の苦手な生徒でも理解できるような内容に設定する。 ・資料にはそれぞれ課題が設定されているため、教師は課題の進捗を確認し、立ち止まっている生徒の指導を行う。
10 分	5 まとめ ・自分のワークシートをグループのメンバーに説明し、探究課題の進捗状況を共有する。 ・単元のポートフォリオに本時の問いについてまとめる。				・承久の乱の影響の中で、自分の単元の問いに必要な情報を簡潔に説明させ、単元課題の進捗状況を共有させる。

2	4	学習課題 元寇は世の中をどう変えたのか？ 3つの資料をもとに元寇が社会に与えた影響を読み取り、グループのメンバーに説明する。(エキスパート学習) 資料①…元の視点からの日本 資料②…日本の視点からの元寇 資料③…元寇の影響 3つの資料をもとに、本時の課題について話し合い、発表する。(ジグソー学習)	○			知：元寇に関わる資料を活用して、その社会的影響を多面的に理解し、スプレッドシートにまとめている。
	5	学習課題 庶民が力をつける一方で、なぜ幕府は衰退したのか？ - 絵画資料をもとに鎌倉時代の経済発展についてワークシートにまとめる。 - 経済発展と元寇が幕府に与えた影響についてグループで話し合い、発表する。	◎			知：鎌倉時代の経済発展についてワークシートにまとめたものを参考にして、幕府衰退の原因についてグループで考察したことをスプレッドシートに自分の言葉で表現できる。 【スプレッドシート】
3	6	学習課題 新仏教は人々にどのような『救い』を与えたのか？ 資料を参考に鎌倉新仏教の特徴などについてワークシートにまとめ、グループに共有するとともに、グループで問いについて考察し、発表する。	○			思：鎌倉新仏教における宗派の特徴や特色を多面的に理解し、人々に広く浸透していく背景を考察し、ワークシートに表現できる。
	7	学習課題 鎌倉時代の文化は現代にどのように受け継がれているか？ 3つの資料をもとに鎌倉文化発展の社会背景についてグループのメンバーに説明する。(エキスパート学習) 資料①…世界を映す建築・彫刻 資料②…日本社会を映す絵画 資料③…生活を映す文学 3つの資料をもとに、本時の課題について話し合い、発表する。(ジグソー学習)	◎			思：鎌倉社会を映し出す文化は、さまざまなものに影響を受けていることを理解し、そうした文化は現代社会に継承されたり、形を変えて存在したりしていることについて考察し、スプレッドシートに表現できる。 【スプレッドシート】